

近藤真琴 きんどう 洋學者、教育家。天保二年九月二十四日江戸生れ、
 明治十九年九月四日歿（六三二六）。字徽音、幼名鉦之助、通稱誠一
 郎、芳隣。號こんどうまこと、まこと、愛梅主人、愛梅居、癡道人、
 眞琴、芳隣外史、菅原朝臣、菅原朝臣眞琴、菅原眞琴、誠、近藤の眞
 琴、近藤誠、雪谷、雪谷道人。大村益次郎等と學ぶ。文久二年軍艦操
 練所翻譯方、また蘭學教を興く。明治二年兵部省海軍操練所に出仕、
 更に攻玉塾を創設。十五年海軍教務副總理、翌年大槻文彦等とかなの
 ともを組織するほど、おなじ文字普及に努めた。林李樹編著『近藤眞琴
 先生傳』（山口鏡之助編、昭和十二年二月五日攻玉社）、豊田穰『夜
 明けの潮―近藤眞琴の教育と子弟たち』（昭和五十八年九月十日新潮
 社）、天ヶ瀬恭三執筆『近藤眞琴伝』（昭和六十一年九月四日攻玉社
 学園）等がある。

譯著書、シラスコリデス著『新木來記』全二冊（十年前譯述、明治十
 一年十二月二十六日青山清吉出版）、『無氣運道論』（撰、白藤道恕
 校訂、明治十七年十一月海軍共學校）、『まことばのそと』全六冊（こ
 んどうまこと名、明治十八年九月付刊、瑞穂屋卯二郎・米倉屋順二郎
 ・共益商社發兌）、『雄辯
 大家實地演說筆記・上巻』（合著、明治二十年
 六月一日内山龜太郎編刊、京改進黨・鶴聲社發兌）等。

